

平成 24 年度 狛江市市民協働提案事業実施報告書

狛江にプレーパークをつくる会
狛江市児童青少年部子育て支援課
狛江市建設環境部道路公園課

目 次

1. 目的	・・・2
2. 実施内容	・・・2
(1) 冒険遊び場の開催	・・・2
(2) 視察	・・・4
3. 分析	・・・5
(1) 様々な条件で開催した結果の分析	・・・5
(2) 参加者データ、アンケート結果、開催の様子からの分析	・・・7
4. 調査・研究結果	・・・10
5. 資料編	・・・11

1. 目的

「定常的な冒険遊び場設置の実現可能性に関する実践的な調査・研究」を目的に、市内各所で、様々な季節に平日、連日など数パターンの実験的な冒険遊び場を開催をしました。

2. 実施内容

(1) 冒険遊び場の開催

年間8回延べ18日の冒険遊び場を開催しました。開催にあたっては、できるかぎり常設に近い形で実施するよう努めるとともに、調査・研究のために以下の手法を実施しました。

- ① 条件の違う市内5か所での開催
- ② 近隣の方からの聞き取り
- ③ 来場者からのアンケート（大人・子ども）

■各回ごとの概要（様子）

i) 4/22(日) 和泉多摩川河川敷

年度初めの4月は宣伝と考え、焚き火でパンを焼く「遊ぼうパン」を実施しました。小雨も降る天気でしたが、日曜日開催だった為、家族連れが目立ち120人の方に参加いただきました。

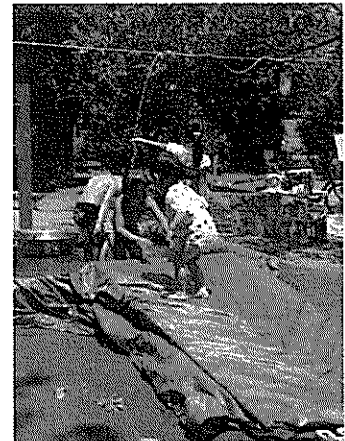
ii) 6/4(月)ー6(水)〔3日間連続〕 東野川1丁目樹林地

平日に3日間連続で開催し、今年度最高の1日259人の参加者を記録しました。小学生の参加者も平日としては、かなりの人数が参加しました。

iii) 7/29(日)ー8/2(木)〔5日間連続〕 西河原公園

小学生に思いっきり遊んでほしいと夏休み中に5日間の連続開催を実施しました。結果として小学生はサマースクールなど小学校の企画も多かったようで、幼児親子の参加が目立ちました。

西河原公園は樹木が多く、木陰を利用し厳しい暑さにもかかわらず、長時間滞在する親子が多く見られました。主に水遊びを楽しむ子がたくさんいました。



iv) 9/22(土) 小足立のびのび公園

土曜日、日曜日の週末2日間の開催を予定していましたが、2日目は悪天候の為中止となり、土曜日1日だけの開催となりましたが、結果的に121人の方に参加いただきました。

v) 10/17(水)ー19(金) 西河原公園

平日に3日間連続で開催しました。天候に恵まれず、1日目、2日目の参加者があまり多くありませんでした。中でも、2日目は朝から雨が降っていて、ブルーシートでタープを張り、待機していました。気温も低く雨は1日降り続けましたが、夕方4時過ぎに前日来た小学生4人（小6女兒3名・小3男児1名）が昨日の遊びの続きをしに来た。うす暗い中、傘やカッパを着て遊んでいました。子どもには、秋口の雨の日くらいなら、続きをやりたいという気持ちの方が優先されるようでした。



vi) 12/24(月・祝)、25(火) 東野川1丁目樹林地

12月24-25日のクリスマス中に開催しました。6月の同場所での開催の参加者数から、賑やかな開催を予想していましたが、選んだ日が悪かったせいか、参加者はかなり少ない結果となったものの、プレーリーダーやベゴマのお爺ちゃん等のお昼用に作ったミネストローネの残りを参加者皆に分け合い、寒い中で体も温まることで、親近感が湧き心の距離が縮まったように感じました。女性スタッフということもあり、今まで遊びに来ていただいたお父さんとの会話が、とてもハードルが高かったのですが、これを機に会話がしやすくなりました。

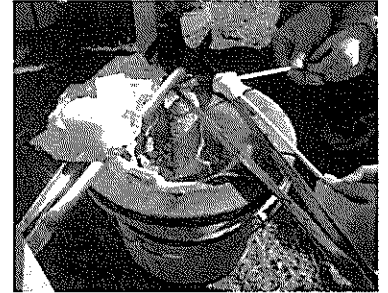
落ち葉や銀杏があり、用意した七厘2台で銀杏を焼いて食べたり、落ち葉で山を作るなど季節ならではの遊びもありました。

vii) 1/27日(日) 和泉多摩川児童公園

週末に、1日だけの開催をしました。

今年度初めての場所での開催ということで、近隣の方や普段利用されている方から、様々なご意見をいただくことを予想していましたが、特段問題なく開催することができました。

当日は、親子連れの参加者でにぎわっていました。七厘があることをチラシに掲載したところ、焼きたい物を持参した親子連れで火の回りはとても和やかな雰囲気でした。



viii) 2/24(日)、25(月) 西河原公園

平日と休日を組み合わせて2日間連続で開催しました。当日は晴れてはいましたが、強風だった為参加者があまり多くない結果となりました。

乾燥していて土埃が立ったため、水撒きを行ったところ、あっという間に子ども達が水遊びを始め、寒さに関係なく、土で水路を掘り、水を流し楽しんでいました。



(2) 視察

子育て支援課・道路公園課・狛江にプレーパークをつくる会で、常設プレーパークを3か所視察しました。現地を見学させてもらうとともに、各箇所の常設プレーパークの設立経過、現在の運営状況・問題点・課題などを説明してもらいました。3か所それぞれが独自の形で成り立ち、運営されていますが、共通して行政と団体が一定の役割分担のもと、協働で事業が成り立っていました。

【所見】

“常設”と言ってもその台所事情には大きな差があることに驚きました。常設までの経緯等により行政の財政負担に大きな開きがあると感じました。また、どの視察場所からも、安定して継続して開園させていくためには、プレーリーダー2名以上の雇用が必要だとの話があり、狛江市に常設する場合にも、プレーリーダー2人以上の配置が必要だと感じました。

常設後には、子育てに関する事業をさらに展開させていきたいと考えているプレーパークをつくる会としては、プレーパーク運営以外の子育て事業を長年にわたって展開している国分寺プレイステーションでの視察は参考になりました。たとえば、委託事業費に事務費が入らないことで、事務の人件費を自分達でまかなうことに苦労しているなど、今後の展開に役立つ内容を聞くことができました。

行政としても、常設後の近隣の方への理解、運営を続けていくために必要なこと（運営団体の組織としての継続性、プレーリーダーの質の向上など）、運営団体との契約形態（委託・協定・助成）など常設する際の課題・問題点を確認することができました。今後狛江市が常設する場合に、これらの点を踏まえて検討していく必要があります。

3. 分析

冒険遊び場を、条件の異なる市内5か所で実施し、開催日数・開催日・開催時期など設定を変えて検証しました。

(1) 様々な条件で開催した結果の分析

【主催団体狛江にプレーパークをつくる会の分析】

和泉多摩川	広さ	<p>× プレーリーダーから、「狭い空間でこそ遊ぶのが好きな子どもたちにとっては、広くて木も少なく隠れる場所がないので、段ボールハウスを作って自分のスペースを作る子が多いように感じた。」との意見。</p> <p>→ 広過ぎる。空間が開け過ぎていて、じっくり落ち着く場がない。</p>
	木	<p>× 開けた土地に大木が5～6メートルの間隔をおいて3本。間隔が広すぎロープ遊具が弛みやすかった</p> <p>→ 木と木の間隔は広すぎないほうがよい。</p>
	土	<p>× 土の地面はほとんど見られず。</p> <p>→ 転んだり、落ちたりのケガが重症化の恐れあり。掘るような遊びはできない</p>
	小山	<p>× 河川敷なので土手はあり</p> <p>→ 開催場所からは距離があり、傾斜を利用するような遊びは提供できない</p>
河川敷	水道	<p>× 水道は隣接する野球グラウンドにはあり</p> <p>→ホースをつなげて開催場所までとどかない、水道水が使用できないのはケガの手当てなど衛生面に不安</p>
	火	<p>○ 焚き火台で薪を使用することができた。</p> <p>→ 遊び場に来るきっかけになっていたようだ。なごんでいる場面が多くみられた。火自体は、日常生活では子どもだけで扱わせてもらうことは難しいため、大人が配置されている冒険遊び場のような場所で火に子どもが触れられることの意義は大きい。</p>

のびのび公園	広さ	<p>○ 整形地で遊具もなく中央に立てば前面が見渡せる広さ。</p> <p>→ 狭い様子はなかった。</p>
	木	<p>△ 大きな木が公園の中側に、離れすぎない間隔で何本かあるが、小さい木が多い</p> <p>→ロープ遊具が付けやすい。木陰でくつろぐことが出来るほどの木はない。</p>
	土	<p>△ 全面やわらかい土、芝やシロツメクサも生えていた</p> <p>→通路として利用する部分は土が出ているが、水はけが悪い。また凸凹をつくと通行人がつまづくなどの苦情があり、地面を掘るなどの遊びは不可。</p>
	小山	<p>○ 大きくなだらかな小山あり</p> <p>→中腹で段ボールハウス作りをしていた子が、偶然滑ったことで段ボール滑り台へと遊びを発展させた。小山のそばの木に設置したターザンロープは小山の上から飛び乗ることで、高低差が加わりスリルが増し子どもの挑戦心をくすぐった。</p>
	水道	<p>△ 水道は上に水飲み用蛇口、下部に普通の蛇口のあるタイプの水道が1箇所</p> <p>→水遊びをするとすぐに水たまりができ、手洗い以外の使用は困難。近隣の方が通路としても使っているようなので、地面がぬかるんでしまう事は周辺の方からの苦情が出る恐れあり。</p>
	火	<p>× 使用不可</p>

西河原公園 健康遊具のあるエリア	広さ	× 健康遊具のエリアを使用 →健康器具のエリアで遊ぶ子、噴水のあるほうへいく子など開催エリアを越えて遊ぶ子供もみられ十分な広さではなかった。
	木	○ 適度な密生した樹木、ロープ遊具やツリーハウスを作ることができる様々な木々ありを付けるのに適した木が多かった。 →子ども達が自発的にブランコを作る事もできた。夏は、木陰が豊富だったため、猛暑にもかかわらず参加者が長時間滞在していた。公園内に多数の樹木が植えられており、ある程度音を吸収する作用もあった。
	土	○ 樹木の下は木片のチップが撒かれていて非常にやわらかかった。他の地面も掘れる土だった →小山の土を掘り、水遊びを含めた泥団子作りや泥のままごとをする様子があった。石のない粘土質土は幼児から高学年まで共通する遊び道具となっていた。石のすくない柔らかい土は、幼児が裸足で歩くのも安全。樹木の下は特にやわらかく、落下をしてもクッションとなり大事故をさけられる。
	小山	○ こんもりした小山あり →溝を作り水を流し川を作る遊びや、小山のプールからミニすべり台を作るなど、傾斜から生まれる偶発的な転がる・流れるなどの動きから、遊びが発展した。
	水道	△ 水道1つ利用可 →排水も可能で、様々な水の使い方が可能だった。泥んこ遊びや、夏にはプールを作って水遊びもできた。 が、蛇口が1つなので、遊びに占領されてしまうと、手洗い、傷の手当て等に不便も（後期の開催時には分岐口をつけて対応）
	火	× 使用不可

東野川1丁目樹林地	広さ	× 600㎡～1000㎡程度？ →幼児と激しい動きの小学生の遊び場所の住み分けができず、危険と感じる場面があった。
	木	△ 樹林地だけに木は豊富 →木を使って遊具を作ったり、小屋を作る遊びに最も適していた。が、木が多すぎて大きな遊びをする為のスペースの確保が難しかった。火の回りの落ち葉に注意が必要
	土	○ 柔らかく掘り易い。 →泥遊びをする幼児が多数見られた。
	小山	× 一面平地。 → 滑る流れるという動きの遊びの発展はしない。
	水道	△ 隣接する児童遊園の水道を使用 → ホースを使用しミニプールでの水遊びはできたが、フェンスがあり不便だった。
	土	○ 柔らかく掘り易い。 →泥遊びをする幼児が多数見られた。
	小山	× 一面平地。 → 滑る流れるという動きの遊びの発展はしない。
	火	△ 七輪使用可 →冬の開催時には、温かい食べ物や飲み物を共有することで、一体感が生まれ会話がしやすくなった。べっ甲飴やマシュマロなど、火を使っての遊びもできた。七厘は火が見えないので触ろうとする幼児がいて危険だった。

和泉多摩川児童公園	広さ	△1000㎡～1500㎡? →敷地面積が狭い訳ではないが、既存の遊具が多くあるためスペースは狭く感じた。現状のままでは出来ることに限界がある。
	木	×公園を囲むように樹木が配置されている →ロープ遊具を付けられる箇所は少なかった。木陰も少なく、夏に開催する場合はタープなど熱中症対策が必要
	土	×硬い地面 子どもが掘れないほど堅く、草地の部分は柔らかいが遊ぶ素材としては面白みに欠ける。
	小山	×一面が平地。 → 滑る流れるという動きの遊びの発展はしない。
	水道	△入り口に上部に水のみ口、下部に蛇口の水道1箇所 →冬場の開催だったので、ホースの設置もせず水遊びは発生しなかった。夏の開催中の水遊びには不便を感じる
	火	○七厘使用可 →日曜の開催でお父さん参加者も多く七厘を囲み、参加者とスタッフとの垣根がないような雰囲気になっていた。和むだけでなく、火の回りで昼食を温めるなど、朝から終わりまで長期滞在する参加者がとても多かった。

(2) 参加者データ、アンケート、開催の様子からの分析

i) 参加者データより

分析	評価
開催時期(季節)・曜日に参加者数や参加者層が左右される。	常設した際には、参加者が少ない時期等に、参加者を増やすための方策を検討する必要がある。
開催場所付近の参加者が多い。	1箇所の常設プレーパークでは、市内全域をカバーするのは難しい。常設後には出張プレーパークなどを検討していく必要がある。
全体的に乳幼児親子の参加が多かった。	乳幼児親子が日常の居場所、人との繋がりを求めていることがうかがえた。
第5回の西河原公園の開催は夏休み中だったが、小学生の参加が少なかった。	夏休みに小学校での企画が多かったものの、もっと小学生へのPRを検討していく必要がある。
西河原公園は小学生の参加が少ない傾向が見られる。	今の西河原公園は、子どもにとって「遊ぶ場」として認識されていない様子。常設後は、開催場所の周知が必要である。
「周囲の声」は、肯定的な意見が多いものの、否定的な意見があることも見逃せない。	常設の際には、近隣の方の理解を得るための努力が必要である。

《年間参加者の詳細は添付資料参照》

ii) アンケートより

分析	評価
開催希望日数が週1日～2日が多く、常設を希望する声が少ない。	プレーパーク自体の認知度が低く、来場者が具体的にイメージができていないと考えられる。常設プレーパークのイメージを発信していく必要がある。
良い点として、「スタッフがいる」(204回答)「普段できない遊びができる」(177回答)などの声が多くあがった	通常の公園とは違う特別な遊び場として意識されている様子。また、工具や火があるため、大人の目があることで安心感を与えていることも原因と考えられる。
「木がある」(123回答)も多く選ばれた	夏の木陰の涼しさ、普通の公園にはない木を使った手作り遊具などが評価された結果と考えられる。
「水が使える」(108回答)ことも良い点として多くの人が回答	泥んこ遊び、夏の水遊びの出来る場が求められた結果と考えられる。
プレーパークを知っている人は75%強と多かったが、プレーリーダーを知っている人は15%強とかなり少なかった。	「プレーパーク」をもっと周知させる必要がある。

《アンケート回答詳細は添付資料参照》

iii) 開催の様子より

○プレーリーダーの必要性の検証(プレーリーダーがいる日、いない日の開催の様子比較)

プレーリーダーいないときの様子	プレーリーダーいるときの様子
遊びがもう一步広がる様子が少なかった。	初めて会った子ども同士が、プレーリーダーを共通の友達のような存在として、一緒に遊び始める様子がよく見られた。
スタッフが高学年の子に、打ち解けてもらおうと何度も声をかけてみたが、ずっと敬語だった。	プレーリーダーと小学生が敬語を使わないで会話をしている様子を多々目にしていたので、子どもはプレーリーダーと保護者を区別していることがわかった。
「ハンモック付けられないの」など遊具の設置を頼まれ困った。	スタッフには、プレーリーダーのような遊び場の設定、雰囲気作りが出来ず、簡単にプレーリーダーの代理は出来ない事を実感した。

○遊び場開催中の様子



↑プレーリーダーの手作り遊具でその場に居た子ども達が互いに協力・工夫し合い遊んでいる様子↑



プレーリーダーのモンキーロープ作りを参加者みんなで手伝っている様子

4 調査・研究結果

■24年度の調査研究から得られた常設プレーパークに必要な要素

	必要要素	理由
広さ	約2,000㎡以上	<ul style="list-style-type: none"> ・視察を実施した3箇所のプレーパークの広さも約2,000㎡あった。 ・狛江市内での開催の様子からも、東野川1丁目樹林地や西河原公園では、敷地が狭く、思うように遊べない状況が見られた。 ・プレーパーク内に必要な自転車置き場、管理小屋、物置などの設置スペースを確保する必要がある。
場の特性	<ul style="list-style-type: none"> ①地面は柔らかい土 ②適度な樹木 ③起伏のある土地 ④井戸の掘削が可能 	<ul style="list-style-type: none"> ①和泉多摩川河川敷のような石だらけの地面ではケガのリスクが高い。 ②和泉多摩川児童公園のような公園にぽつりぽつりと点在している木の配置では、遊びには使用できない上、直射日光を防ぐ木陰もない。一方東野川1丁目樹林地では木が多すぎて、かえって遊びが制限される事もある。 ③西河原公園では、小山の傾斜に溝をほり川を作る遊びや転がる・流れるなどの動きから、子どもが遊びを発展させていた。起伏のある土地により、子どもの遊びが発展させることができる。 ④夏の水遊びは熱中症の予防に欠かせないが、大量の水を使用するため水道代が嵩む。
周辺環境	近隣住民の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・視察をしたプレーパークでは、どこも数名の近隣住民からの苦情に苦慮していた。 ・木工遊びの音、子どもの声に対しての苦情も考えられるので、住居とは一定の距離をおけることが望まれる。
運営	行政と団体の協力	<ul style="list-style-type: none"> ・プレーリーダーの雇用には多大な費用がかかり、運営団体が自主財源でまかなうのは、限界がある。 ・他市においても、一定程度行政の安定した財源のもと運営されている。

■まとめ

今年度1年間通じて、様々な条件のもとで、冒険遊び場を開催するとともに、他市の状況を視察し、定常的な冒険遊び場設置の実現可能性について、調査・研究してきました。

調査・研究結果として、上述の「常設プレーパークに必要な要素」のもと常設の実現可能であると考えます。同時に、今回の協働事業の中で新たな課題も明らかになりました。常設プレーパークを開催するためには、当然のことながら、開催場所が必要不可欠となります。まずは、必要な要素を一定程度備え、法律上の制限を加味した上で候補地を選定する必要があります。また、今回の開催回数では問題ありませんでしたが、今後常設にあたり、プレーパークをつくる会の体力づくり、組織化、モチベーションの維持が必要となります。そして、そのための前提条件である安定した財源をどの程度確保できるか、プレーパークそのものの周知が今後の課題ではないかと考えます。

最後になりましたが、1年間冒険遊び場を開催することにより、多くの方々に冒険遊び場を体感してもらえたこと、また開催場所の近隣の方から温かい声をいただけたこと、さらに行政と市民が協力して事業を実施してきた中でお互いにたくさんのことを得られたことは大きな成果だったと思います。

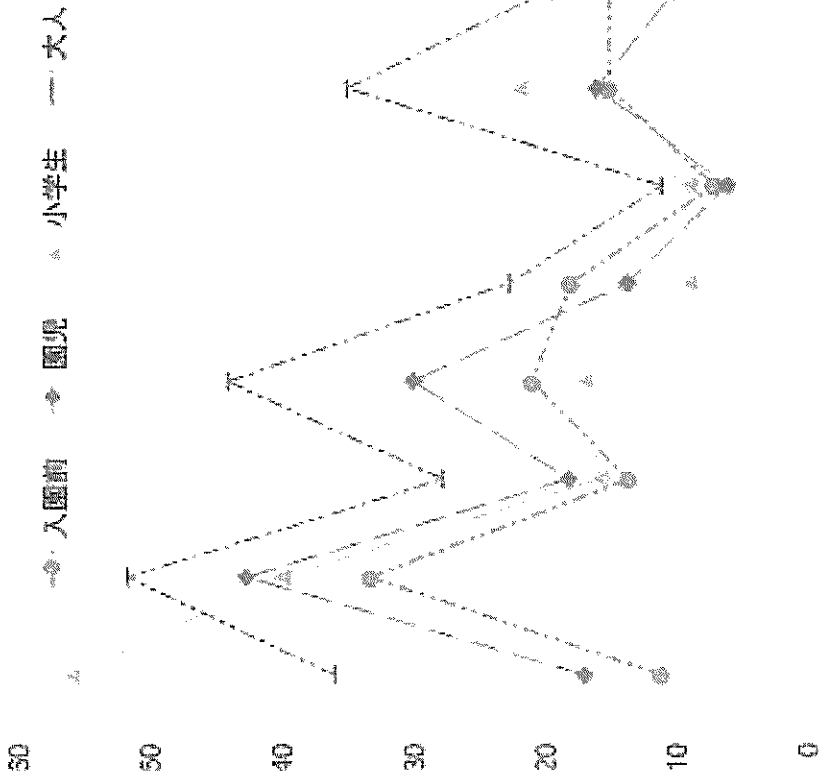
5 資 料 編

平成24年度 冒険遊び場 参加者数

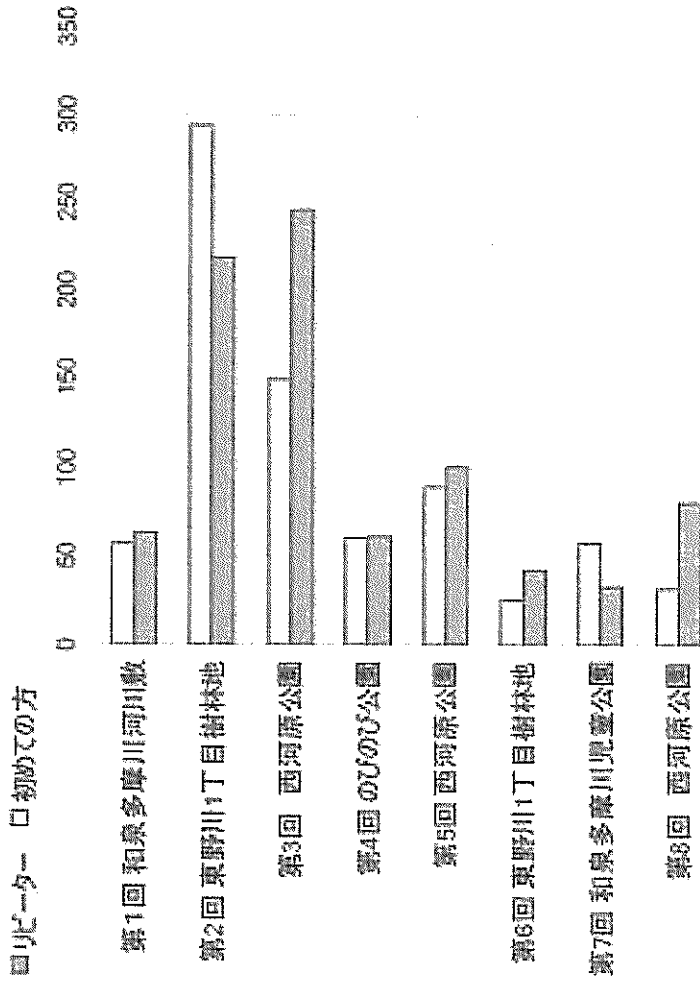
2012.3月

開催地	第1回			第2回			第3回				第4回			第5回			第6回		第7回	第8回	
	和泉多摩川	東野川丁目樹林地		西河原公園				西河原公園			西河原公園			東野川丁目樹林地		和泉多摩川 児童公園	西河原公園				
開催日	4/22 (日)	6/4 (月)	6/5 (火)	6/6 (水)	7/29 (日)	7/30 (月)	7/31 (火)	8/1 (水)	8/2 (木)	9/22 (土)	10/17 (水)	10/18 (木)	10/19 (金)	12/24 (土)	12/25 (日)	1/27 (日)	2/24 (日)	2/25 (月)			
天候	(曇) 一時小雨	晴れ	曇り	雨→ 曇り	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ 時々曇り	晴れ	曇り	晴れ→曇り 時々雨	曇り	晴れ	晴れ (曇り)	晴れ (曇り)	晴れ	晴れ (強風)	晴れ (強風)			
1日合計	120	148	259	106	47	81	88	111	69	121	55	10	125	90	38	91	61	32			
開催期間 合計	120	513			396				121			190			69		91	113			
年間 合計	1613																				

参加者年齢別データ



開催毎のリピーターと初参加者の比較

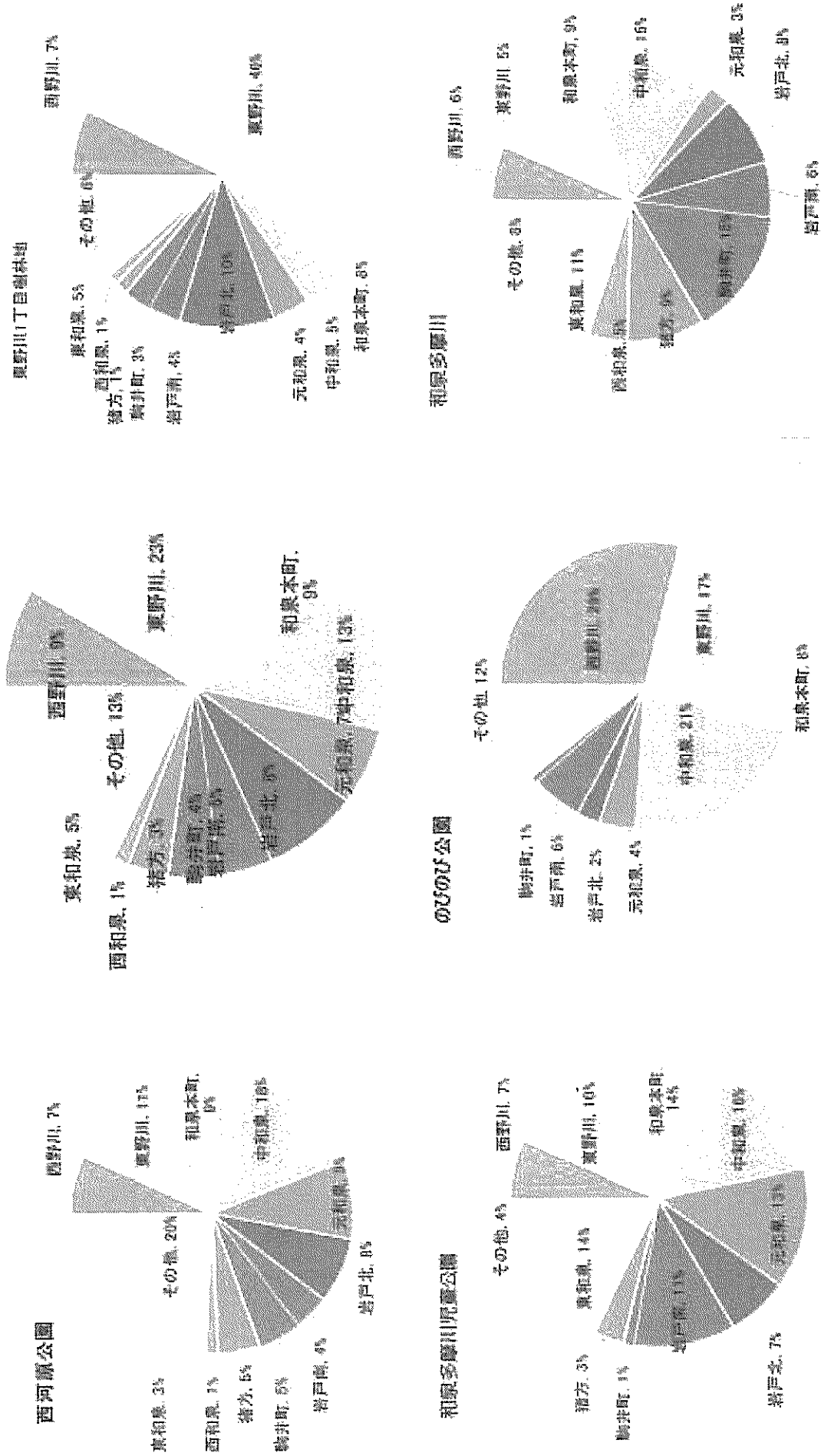


- 第8回 西河原公園
- 第7回 和泉多摩川児童公園
- 第6回 東野川1丁目樹林地
- 第5回 西河原公園
- 第4回 のびのび公園
- 第3回 西河原公園
- 第2回 東野川1丁目樹林地
- 第1回 和泉多摩川

開催地ごとの参加者の居住地比較

年間合計

- 西野川
- 東和泉
- 西和泉
- 岩戸北
- 岩戸南
- 東和泉
- 中和泉
- 駒井町
- その他



フレアーパーク (園遊遊び場) 来場者アンケート (抜粋)

園遊遊び場 (園遊遊び場) について
Q1 フレアーパークを以前から知っていましたか

園遊遊び場	14
知っていました	44

Q2 何を知ったか

園遊遊び場	11
1ヶ月前の市内の園遊遊び場に参加した	8
サインターネット	0
新聞	3
4世帯	24
3チラシ	8
友人	0
7市内探検	10
それ以外の自然体の園遊遊び場に参加した	

Q3 今日初めて園遊遊び場の園遊遊び場・園遊遊び場

園遊遊び場	
(1) 園遊遊び場	204
1. 園遊遊び場がある	77
2. 園遊遊び場がある	108
3. 園遊遊び場がある	123
4. 園遊遊び場がある	18
5. 園遊遊び場がある	51
6. 園遊遊び場がある	37
7. 園遊遊び場がある	36
8. 園遊遊び場がある	38
9. 園遊遊び場がある	177
10. 園遊遊び場がある	75
11. 園遊遊び場がある	57

(2) 園遊遊び場

園遊遊び場	17
1. 園遊遊び場がある	8
2. 園遊遊び場がある	194

Q4-1 園遊遊び場の日数及び来場者数

園遊遊び場	
(1) 園遊遊び場	82
1. 園遊遊び場 (週1日~2日)	55
2. 園遊遊び場 (週2日~5日)	37
3. 園遊遊び場 (週6日~1日)	32

(2) 園遊遊び場 (上表3カ所)

園遊遊び場	園遊遊び場	園遊遊び場	園遊遊び場
1. 園遊遊び場	2. 園遊遊び場	3. 園遊遊び場	4. 園遊遊び場
5. 園遊遊び場	6. 園遊遊び場	7. 園遊遊び場	8. 園遊遊び場
9. 園遊遊び場	10. 園遊遊び場	11. 園遊遊び場	12. 園遊遊び場

Q4-2 フレアーパークの園遊遊び場の日数及び来場者数

園遊遊び場	
1. 園遊遊び場	16
2. 園遊遊び場	4
3. 園遊遊び場	13
4. 園遊遊び場	22

園遊遊び場について
Q5-1 フレアーパークを知っていますか?

園遊遊び場	
(1) 園遊遊び場	16
(2) 園遊遊び場	42

Q5-2 フレアーパークに遊びたいですか?

園遊遊び場	
(1) 園遊遊び場	30
(2) 園遊遊び場	1
(3) 園遊遊び場	1

Q5-3 フレアーパークに遊びたいですか?

園遊遊び場	
(1) 園遊遊び場	120
(2) 園遊遊び場	54

園遊遊び場について

園遊遊び場	
(1) 園遊遊び場	36
2. 園遊遊び場	226

(2) 子どもの年齢 (男女合計)

園遊遊び場	
(1) 園遊遊び場	21
(2) 園遊遊び場	35
(3) 園遊遊び場	47
(4) 園遊遊び場	48
(5) 園遊遊び場	70
(6) 園遊遊び場	34
(7) 園遊遊び場	31
(8) 園遊遊び場	22
(9) 園遊遊び場	8
(10) 園遊遊び場	8
(11) 園遊遊び場	2

周囲の方の声 (開催中に偶然通りかかった方、開催前後に挨拶に挨拶に伺った近隣の方など)

場所	和泉多摩川河川敷 (※開催後の園取の交差点です)	西河原公園	東野川丁目樹林地	小足立のびのび公園	和泉多摩川児童公園	
開催日	4月22日	7月29日(日)～8月2日(木) 10日(日)～19日(金) 2月24日(日)～25日(月)	6月4日(月)～6日(水) 12月24日(祝)25日(火)	9月27日(土) (28日は雨天中止)	1月21日(日)	
否定的意見	・「着席して、公園に手を加えて木を切ったり自然を壊すのは寂しい！」 (自然を生かす遊び場だと説明し、納得してくれました。) ・「道をめぐるような尋ねると、子どもが驚くところだよ。」 (マシヨウジ住民)	・「着席して、公園に手を加えて木を切ったり自然を壊すのは寂しい！」 (自然を生かす遊び場だと説明し、納得してくれました。) ・「道をめぐるような尋ねると、子どもが驚くところだよ。」 (マシヨウジ住民)	・「あよっと種を切りました。」	・「公園の木のスペースで子どもが飛び跳ねると、着席している人が驚かす。」 ・「日頃めんどくさいシートを敷かないで欲しい、近所の人と連絡としてでもぜひ、土がぬかるむと困る。」(園長御体様より) ・「近所に人生がいろいろ変わる子どもがうろつき回ると困ると言われてる。」 ・「2時間くらいは利用したいが、長時間はやめて欲しい。」(管理御体様より)	・「公園の木のスペースで子どもが飛び跳ねると、着席している人が驚かす。」 ・「日頃めんどくさいシートを敷かないで欲しい、近所の人と連絡としてでもぜひ、土がぬかるむと困る。」(園長御体様より) ・「近所に人生がいろいろ変わる子どもがうろつき回ると困ると言われてる。」 ・「2時間くらいは利用したいが、長時間はやめて欲しい。」(管理御体様より)	
肯定的意見	・「普段も歩いていないから、ちょっと歩いたから、小学生に「普段は人がいないので、小学生になっても子どもだけで遊ばせられないから、こういう場所がいつもあれば安心して行きたい。」 ・「昔も全く聞かなくて、やっつたの？」 ・「会場こそ遊びに行くわね！」 ・「はい、どうぞー！」(両親もご挨拶に伺った両方)	・「普段も歩いていないから、ちょっと歩いたから、小学生に「普段は人がいないので、小学生になっても子どもだけで遊ばせられないから、こういう場所がいつもあれば安心して行きたい。」 ・「昔も全く聞かなくて、やっつたの？」 ・「会場こそ遊びに行くわね！」 ・「はい、どうぞー！」(両親もご挨拶に伺った両方)	・「子どもの声も元気がいいよ！」 ・「子どもの声も聞いて嬉しかった。」 ・「うちの子どもが来てくれて嬉しかった。」 ・「我が家に来る前にやっつけてくれたら連れていきたいわね。」 ・「楽しんでほしいことをやっつけてあげよう。」 ・「楽しんでほしいことをやっつけてあげよう。」 ・「大人がいるので安心して子どもだけで行かせる。」	・「公園の木のスペースで子どもが飛び跳ねると、着席している人が驚かす。」 ・「日頃めんどくさいシートを敷かないで欲しい、近所の人と連絡としてでもぜひ、土がぬかるむと困る。」(園長御体様より) ・「近所に人生がいろいろ変わる子どもがうろつき回ると困ると言われてる。」 ・「2時間くらいは利用したいが、長時間はやめて欲しい。」(管理御体様より)	・「公園の木のスペースで子どもが飛び跳ねると、着席している人が驚かす。」 ・「日頃めんどくさいシートを敷かないで欲しい、近所の人と連絡としてでもぜひ、土がぬかるむと困る。」(園長御体様より) ・「近所に人生がいろいろ変わる子どもがうろつき回ると困ると言われてる。」 ・「2時間くらいは利用したいが、長時間はやめて欲しい。」(管理御体様より)	・「公園の木のスペースで子どもが飛び跳ねると、着席している人が驚かす。」 ・「日頃めんどくさいシートを敷かないで欲しい、近所の人と連絡としてでもぜひ、土がぬかるむと困る。」(園長御体様より) ・「近所に人生がいろいろ変わる子どもがうろつき回ると困ると言われてる。」 ・「2時間くらいは利用したいが、長時間はやめて欲しい。」(管理御体様より)
開催中に伺った声	◎4月からバーベキュー禁止係りが催行された後は、通行人から「どらして火を焚いてるんだ？」との感情多謝。	◎「良いねー！子どもが遊ぶのはいいわねー！子どもが遊ぶのはいいわねー！子どもが遊ぶのはいいわねー！」(毎日遊んでいる方) ◎「毎日、遊び場が油化してるとねー！すごいね、プリーザー、健康な仕事じゃないな、！」(健康器具を試用した方)				